

義務教育学校における 教育内容の確立	中期（3年間） 経営目標	短期（今年度） 経営目標（2/3）	目標達成のための手立て	評価指標	自己評価		学校関係者評価		改善計画
					評価	結果と課題の説明	適正	意見等	改善案
確かな学力	変化の激しい社会を生き抜くために必要な資質・能力を育成する。	児童生徒が、深い学びを自覚し、学びに向かい続ける授業づくりを進める。	自己の学びを振り返る場の推進 ・各教科における振り返り ・「学びのカード」の活用 校内研修の充実 ・授業観察と改善 ・授業での問いの工夫（問いの3階層） ・自己選択ができる授業の創造	・本校で育成したい資質・能力に係るアンケート調査（児童生徒、職員）の肯定的回答80%以上 ・授業観察者の「評価シート」による肯定的回答75%以上を継続					
		基礎学力の確実な定着と向上を図る。	ことば探究科による言語技術の習得 学力分析による授業改善及び個別に応じた指導の充実 朝学習及び学力補充の時間（ぐんぐんタイム）の充実 ICTを効果的に活用した授業づくり	・言語技術を習得し、5段階ルーブリックの評定が2以下または3段階ルーブリックの評定1以下の児童生徒15%以下 ・全国学力・学習状況調査および市統一学力調査等の平均正答率が30%未満の児童生徒15%以下					
地域と創る学校	地域と共に創造する児童生徒を育成する。	児童生徒に関わる家庭・地域と連携して、同じ目標に向かう協力体制を築く。	キャリア教育と英語科におけるAIを活用したカリキュラムの実践及び地域への発信をする。	・地域が開かれた教育課程に係るアンケート調査とキャリア教育に係るアンケート調査（児童生徒、保護者、地域住民）の肯定的回答80%以上 ・英語科におけるAIの活用に関する生徒アンケート調査の肯定的回答80%以上					
		児童生徒が地域と協働及び参画しようとする地域づくりを進める。	CS各組織や地域・企業と連携し、地域学習の充実を図る。 学校運営協議会（地域活動部会）や産業界、他校との連携充実を図る。	・地域行事や地域産業界と協働する活動へ参加した児童生徒90%以上 ・地域と協働し、活動に参加した生徒80%以上					